

# 基礎看護学実習

## 実習要項

# 基礎看護学実習

## I 目的

看護を展開するために必要な基礎的知識と実践を結びつけ、看護過程を展開する思考を育て、対象へよりよい看護を作り上げていく力を養う。

## II 目標

- 1 看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。
- 2 対象理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。
- 3 自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者として自己を高める。

## III 実習の構造

科目	単位・時間数	実習時期
基礎看護学実習Ⅰ (コミュニケーション)	1単位 45時間	1年前期
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	2単位 90時間	2年前期
基礎看護学実習Ⅲ (リフレクション)	2単位 90時間	2年 前期・後期

# 基礎看護学実習 I

## I 実習目標

- 1 看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。

## II 評価規準 (めざす姿)

- 1 患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。(気づく力)
- 2 患者の思いを知るために必要なコミュニケーションを知る。(考える力)
- 3 グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。(気づく力)
- 4 情報管理を適切に行っている。(行動する力)
- 5 礼節のある態度や学び続ける姿勢をもつ。(気づく力)
- 6 医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努める。(行動する力)

## III 単位数・時間数および実習場所

実習内容	実習場所	時間数	単位
事例患者とのコミュニケーション	学内	9	1
病棟実習	静岡市立清水病院	27	
実習のまとめ・ラベルワーク・発表	学内・静岡市立清水病院	9	

## IV 学習内容

学習活動	学習内容	評価規準	評価資料
対象とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者との関わりで“気になる”場面をとりあげ、プロセスレコードに記入し、振り返りをする。</li> <li>2) プロセスレコードを発表し、他者の意見を聞く。</li> <li>3) プロセスレコードの振り返りを通し、自己の傾向をあげる。</li> </ol>	患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を客観視している。	プロセスレコード カンファレンスの発言
看護に必要な患者のコミュニケーションについて表現する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の思いを知るためにどのようなコミュニケーションが望ましいか考える。</li> <li>2) 看護師につき、看護場面を見学する。</li> <li>3) 患者とコミュニケーションを意図的にとる。</li> <li>4) 患者と看護師、患者と自分のやり取りを振り返り、患者はどんな思いを持っているか、どのような関わりが患者を尊重しているか考える。</li> </ol>	患者の思いを知るために必要なコミュニケーションを知る	カンファレンス、グループワークの発言内容 レポート
グループ内で協力し	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グループメンバーと協力してカンフ</li> </ol>	グループメンバ	実習関係者との

<p>あう。</p> <p>看護師としての倫理的規範を持ち、行動している。</p>	<p>ァレンス、グループワークを運営する。</p> <p>2) 自己や他者の意見から看護とは何か、深める。</p> <p>3) 助言を受けて、グループ内で協力し、改善に向けた取り組みをしている。</p> <p>1) 守秘義務を守ることを考えて実習で使用するメモ帳・記録用紙、場による情報提示の管理を適切に行う。</p> <p>2) 気づきや助言を学びとしてタイムリーに整理し、表現した内容について助言を求めながら実習を進める。</p> <p>3) わからないこと、困ったことなどを周囲に相談しながら進める。</p> <p>4) 病院内で出会う人々にその場に合う会釈、挨拶、発言を考えながら行動する。</p> <p>5) 対人援助職、実習にふさわしい身だしなみを整える。</p> <p>6) 体調管理を維持するよう生活を送り、体調不良時には周囲に与える影響を考え、行動する。</p> <p>7) 実習記録を決められた日時に過不足なく提出している。</p>	<p>一と協力して実習に臨んでいる。</p> <p>情報管理を適切に行っている。</p> <p>学び続ける姿勢を持っている。</p> <p>医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努める。</p>	<p>やりとりの状況 カンファレンス グループワーク の運営</p> <p>情報管理の状況 報告連絡相談の 状況</p> <p>身だしなみ 態度・言葉遣い 記録の提出状況 記録 I</p> <p>健康状態 報告・連絡・相 談の状況</p>
---	--	---	---

## V 実習方法

- 1 焦点患者とコミュニケーションを行う。看護師が行っている日常生活援助を見学・体験する。
- 2 自己の意見を整理し、カンファレンスに参加する。

カンファレンスはテーマに沿って自分の意見をメンバーにわかりやすく伝え、意見交換を行う。プロセスレコードでは、注目した場面での患者・学生の言動・思いを考え2者間のやり取りの場面から意見交換を行い自己の傾向を考える。

## VI 基礎看護学実習 I 計画表

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
実習内容	〈学内実習〉 事例患者とのコミュニケーション 振り返り・意見交換	〈病棟実習〉 病棟オリエンテーション ・看護師について看護場面の見学・体験 ・焦点患者とのコミュニケーション	〈病棟実習〉  —————→	〈病棟実習〉
提出		実習記録 I・II プロセスレコード①	実習記録 I・II プロセスレコード②	実習記録 I プロセスレコード②
記録	実習記録 I・II プロセスレコード①	実習記録 I・II プロセスレコード②	実習記録 I・II プロセスレコード② (発表学生追加・修正)	実習記録 I プロセスレコード② (発表学生追加・修正)
CF	事例患者と関わり、注目した場面(気になった場面)から患者の思い、患者、自己の言動の理由について考える。	事例患者と関わり、注目した場面(気になった場面)から患者の思い、患者、自己の言動の理由について考える。	指導者と時間調整 プロセスレコードの発表・振り返り (2～4人発表)	指導者と時間調整 プロセスレコードの発表・振り返り (2～4人発表)
指導者				
	5 日目			
実習内容	AM 〈学内実習〉 「私たちが考える看護に必要なコミュニケーションとは、患者の思いを尊重する関りとは」について意見交換・作品作り PM (病院 研修棟 2F) 2年生全体 作品の発表 意見交換			
提出	実習記録 I・II プロセスレコード②			
記録	実習記録 I・II 実習記録の追加・修正 レポート			
CF				
指導者				

## VII 提出記録

- 1 基礎看護学実習 I 評価表（自己評価の理由も記述）
- 2 レポート テーマ「看護に必要なコミュニケーションとは何か」  
A4用紙 1050字以上 1500字以内にワード文書で文字カウントを示し提出する。  
表紙はつけず、1行目に学籍番号と氏名、2行目にテーマ、3行目よりレポートを示す。学籍番号  
氏名、文字カウント数は、文字カウントに含めない。
- 3 基礎看護学実習 実習記録 I
- 4 基礎看護学実習 実習記録 II  
プロセスレコード①（学内実習）、プロセスレコード②（病棟実習）
- 5 最終記録の提出は、上記の順にファイルにとじ込み、指定された日時を厳守する。

学習活動	具体的な評価規準	目標との関連	評価資料	評価基準		
				すばらしい	よい	歩努力を要する
患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。	患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を客観視している。	1	実習記録Ⅱ カンファレンスの発言	態度・傾聴・伝え方などの視点からコミュニケーションの取り方を振り返り、自己の傾向を表現できている。 30	態度・傾聴・伝え方などの視点からコミュニケーションの取り方の振り返りができている。 25	コミュニケーション場面を挙げることができている。 5
看護に必要な患者とのコミュニケーションについて表現する。	相手を尊重した関わりを具体的に表現している。	1. 2	実習記録Ⅰ・Ⅱ カンファレンスの発言 レポート	患者と看護師の関わり、自己の患者との関わりから、患者の思いを尊重するとはどういうことか具体的に表現できている。 30	患者との思いを知るために必要な関わりを工夫し、患者の思いが表現できている。 20	患者にあわせて話ができている。看護師と患者の関わりが表現できている。 5
グループ内で協力しあう。	グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。	3	実習関係者、グループメンバーとのやりとりの状況	グループの一員としてお互いに助言をしあい、リーダーやメンバーとしての役割ができている。 10	グループの一員として他のメンバーと協力し、実習できている。 8	他者より求められグループメンバーへの意見や役割ができている。 5
看護者としての倫理的規範を持ち、行動している。	情報管理を適切に行っている。	4	情報管理の状況 報告連絡相談の状況	個人情報の保護のため、記録の取り扱い、会話の場所など情報漏洩しない行動ができている。 10	情報の取り扱いに不備があることに気づき、すぐに対処行動ができている。 8	情報の取り扱いについて不適切な状況、周囲への影響を考慮することができない。 1
	礼節のある態度や学び続ける姿勢が見られている。	5	身だしなみ・態度・言葉遣い 実習記録Ⅰ 記録の提出状況	適切な身だしなみ・態度・言葉遣いで礼節のある態度の意味を理解し行動している。わからないことは自ら調べ、アドバイスをもらい積極的に実習できている。 10	指導の意味を理解し、適切な身だしなみ・態度・言葉遣いについて行動を変えることができている。わからないことはアドバイスを受け、調べる・相談できる行動ができている。 8	適切な身だしなみ・態度・言葉遣いについて指導を受けたが行動を変えることができている。わからないことはアドバイスを受けて調べる、相談する行動ができている。決められた記録を提出していない 1
	医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努めている。	6	健康状態 報告連絡相談の状況	自分の体調管理による周囲への影響を考え感染予防に努めた行動をしている。 10	体調管理についてとるべき行動について指導を受けそれに従っている。 5	体調管理に影響する約束事を守れていない。 1
指導者助言  指導者サイン（ ）				欠課時間 時間	自己評価	実習評価

基礎看護学実習 I

◎自己評価の理由（評価基準の内容を確認し、自己評価の理由を具体的に記述しましょう） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

学習活動	具体的な評価基準	目標との関連	評価資料	評価基準（自己評価） すばらしい・よい・ 今一歩努力を要する	自己評価の理由 「すばらしい・よい・努力を要する」 3つの評価基準の内容を理解し自己評価した理由を具体的に記述しましょう。
患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。	患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を客観視している。	1	実習記録Ⅱ カンファレンスの発言		
看護に必要な患者とのコミュニケーションについて表現する。	相手を尊重した関わりを具体的に表現している。	1. 2	実習記録Ⅰ・Ⅱ カンファレンスの発言 レポート		
グループ内で協力しあう。	グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。	3	実習関係者、グループメンバーとのやりとりの状況		
看護者としての倫理的規範を持ち、行動している。	情報管理を適切に行っている。	4	情報管理の状況 報告連絡相談の状況		
	礼節のある態度や学び続ける姿勢が見られている。	5	身だしなみ・態度・言葉遣い 実習記録Ⅰ 記録の提出状況		
	医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努める。	6	健康状態 報告連絡相談の状況		



## 基礎看護実習Ⅱ

### I 実習目標

- 1 現象の因果関係や予測できることについて論理的に説明できる。
- 2 日常生活援助の経験を通し患者のねがう生活の実現と関連付けることができる。
- 3 患者の権利を考え最良の方法で実施できるよう指導者やチームメンバーの助言をうけることができる。

### II 評価規準（めざす姿）

- 1 日常生活援助を自ら考えた方法や指導者の考えている方法を共有しながら指導者とともに実施している。
- 2 患者の状態を示すデータを複数あげて情報収集している。
- 3 データの因果関係の説明を日々更新される情報を用い実施している。
- 4 日常生活援助の実施内容と患者のねがいの実現について論理的に説明できる。

### III 単位数・時間数及び実習場所

実習内容	実習場所	時間数	単位
オリエンテーション・実習準備	学内	2	2
病棟オリエンテーション・病棟実習	静岡市立清水病院	88	

8：30～16：15 9時間（休憩時間60分含む）

### IV 学習内容

患者を受けもち、1日の目標・計画を立て、指導者と日常生活援助を実施する。

学習活動	実習内容・方法	評価規準	評価資料
指導者と共に日常生活援助を実施する。	<p>(実習1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日からの自分の動きをイメージできるよう病棟オリエンテーションを受ける。指導者より病棟の特徴（職員構成、看護体制）・病棟のスケジュール・物品の取り扱い・病棟の構造・災害時の行動・感染予防の方法・情報収集の方法・多職種のカンファレンスの参加方法などについて説明を受ける。</li> <li>・受けもち患者に挨拶を行い、情報収集・翌日の目標・計画を立案する。</li> <li>・受けもち患者を指導者やグループメンバーなどと相談し決定し、挨拶をする。</li> <li>・受け持ち患者の情報収集をする。</li> <li>・得た情報の因果関係について整理する。</li> </ul> <p>(2日目以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当看護師に本日の目標・計画を伝え、相談・助言を得る。</li> <li>・患者の発達特性、発達課題をふまえ、理解した受けもち患者の機能障害と援助の方向性について指導者に相談する。</li> <li>・本日の目標・計画について指導者に報告・相談する。</li> <li>・なぜその計画を立案してきたのか、注目している患者の状況</li> </ul>	日常生活援助を自ら考えた方法や指導者の考えている方法を共有しながら指導者とともに実施している。	実習記録Ⅲ・Ⅳ 看護師との調整の状況

	<p>や・気づきを表現する。そのうえで、指導者として今注目している状況やチームで優先しているケアの内容について情報を得ながら、指導者と一緒にケアに関われるように調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象に合わせた方法や注意点、援助の前・中・後にどのような点を観察すべきか伝え、生活援助を一緒に実施する。</li> <li>患者とどのように関わろうとしているのか、具体的に説明する。その状況で指導者が行うのを見せてもらうのか、指導者主体で学生が少し手を出せるようにする、あるいは、学生主体で指導者がフォローする、見守ってもらうのかを相談しながら実施する。</li> <li>担当看護師と受けもち患者とのコミュニケーションの実際を見学、日常生活援助を実施する。</li> <li>ケア実施後は患者の反応と目標の関連性について実施内容を指導者と話し合えるよう、時間を調整する。5W1Hを意識し、実施した援助が目標としたことと、どのように関連しているのか、患者にとってその関わりがどのような意味があるのか、指導者に伝え、指導者の考えを聴く。ミーティングを活用し助言を受ける。</li> <li>患者の生活援助にこだわらず、関わりを通しての振り返りも有効となる。</li> </ul>		
<p>様々な手段を用いて情報収集をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者が行う検温場面の見学を行い、観察の視点・目的を理解する。そのうえで、指導者と共にフィジカルアセスメント技術を用いた観察を行う。血圧測定についてはチェックを受け、単独で行ってよいか確認する。</li> <li>患者理解が深めていけるよう、記録・報告・相談・ミーティング・面接を通し、考えを表現する。</li> <li>実習初日から患者の状態の変化（様子・データ）とその意味を考える。</li> </ul>	<p>患者の状態を示すデータを複数あげて情報集している。</p>	<p>データの 内容・数・ 関連性の 説明  実習記録 IV</p>
<p>看護問題を挙げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護問題を判断する証拠となるデータを収集し、自己学習を活用して論理的に思考する。</li> <li>指導者から教えられた看護問題は、何が原因となってその問題がおきているのか、どのようにおきているのか、なぜそのようになるのか因果関係を整理する。</li> <li>看護問題を解決するために、自分が把握した状況について指導者に説明し正しく事象が把握できるようにする。</li> <li>状況の把握は、過去の経緯と現状との関連や将来的な予測なども合わせて行う。</li> <li>対象の基本的欲求（呼吸・循環・体温・食事・排泄・運動・睡眠・清潔・環境・感覚・コミュニケーション・心理・社会）の充足状態、未充足の原因・影響などを一つ一つではなく、関連性を意識し収集し因果関係や援助の必要性を整理する。</li> <li>ミーティングの実施（30分）カンファレンスルームで指導者同席のもとテーマに沿って30分程度で行う。（ミーティングのねらい）</li> <li>テーマに合わせて学びを表現することで、対象理解を深め、翌日の対象と関わる手がかりを得る。</li> </ul>	<p>データの因果関係の説明を日々更新される情報を用い実施している。</p>	<p>実習記録 ⅢⅣⅤ 自己学習 ノート 面接 ミーティングの議題提示・ 発言内容</p>

	<p>(ミーティングの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間で事前にテーマを決定し教員指導者に伝える。テーマは患者理解が深められるよう、全体像を用いたり、患者とのエピソードを振り返ったりするなど、自主的にテーマを出す。</li> <li>・出されたテーマに対し、メンバーは自らの経験や学習内容を活かして発言し、あらたな気付きや知識とケアの関連性について結びつくよう意見交換や助言をする。</li> <li>・テーマの内容がお互いに深め合えるよう参加する。対象を理解しながら根拠を考え生活援助を実施する。</li> </ul>		
患者のねがいを実現するための道筋を全体像に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の現象の因果関係と日常生活援助の実施内容の関係や、現象の因果関係から問題点・患者のねがう生活を関連づけて全体像に示す。</li> <li>・最終日にそれらを含む学びをA3用紙1枚にまとめ、プレゼンテーション、意見交換をする。</li> <li>・プレゼンテーションは6分程度の時間制限を設け、学生が中心となり進行する。</li> <li>・ねがいを実現するための具体的なプランや日々の実施を通しての患者の変化など、道筋がわかるように説明する。</li> <li>・実習全体の学びも合わせて説明できる用紙となるようにする。</li> </ul>	日常生活援助の実践と患者のねがいの実現の関連について論理的に説明できる。	実習記録V カンファレンスの参加状況

#### 全体的な注意事項と実習方法について

- ・A4 サイズの「実習用自己学習ノート」を準備し患者理解、看護するために必要な知識を調べ記述する。ノートはすべての実習で活用していく。図や画像のコピーを貼り付けた場合は必ず説明文も記述する。文章のコピーの貼り付けはせずに自分で調べわかったことをまとめる。
- ・病棟実習1日目、実習最終日に、管理報告の時間などで病棟全体に向け、挨拶する。
- ・患者とのかかわりやその他実習中に生じた出来事で判断に迷うこと・困ったことは、タイムリーに指導者やグループメンバーに相談し、解決しながら実習する。
- ・実習5日目あたり、週末、患者変更時など担当教員と相談しながら中間評価をつける。
- ・評価は、各評価規準の該当する評価基準の欄と、総合点に黒のボールペンで日付・点数を記入し、提出する。
- ・記録は、紛失しないようファイリング・提出し、自ら助言を求め、計画的に記録に取り組む。
- ・実習中に実施した看護技術は技術チェックリストに到達状況を記載し指導者にサインをもらう。
- ・技術到達度チェックリストは実習の到達度に合わせ達成度AまたはBを記述し看護師に確認してもらい印またはサインをいただく。実習中・後に担当教員に状況を確認してもらう。

## V 実習計画表

		病棟実習 1日目	2日目	3日目
内容	学内オリエンテーション ・実習準備（2時間）	病棟実習 病棟オリエンテーション ・受け持ち患者紹介 ・情報収集 ・日常生活援助を看護師と共に実施	病棟実習 実習要綱（実習内容・方法）を参照し実習を行う ・検温、日常生活援助を看護師と共に実施	病棟実習 実習要綱（実習内容・方法）を参照し実習を行う ・検温、日常生活援助を看護師と共に実施  バイタルサイン一部実施
提出			①③	①②③
記録		①③	①②③	①②③
MT				
	4日目	5日目	6日目	7日目
内容	病棟実習 実習要綱（実習内容・方法）を参照し実習を行う  ・検温、日常生活援助を看護師と共に実施 ・バイタルサイン一部実施	病棟実習  →	午前：病棟実習  午後：看護問題と計画のつながりについて指導者と共に整理する	病棟実習  ▶バイタルサイン一連の実施 患者のねがう生活にむけ生活援助の計画・実施
提出	①②③	①②③	①②③ 中間評価	①②③
記録	①②③	①②③	①②③	①②③
MT				
	8日目	9日目	10日目	
内容	病棟実習  バイタルサイン一連実施  患者のねがう生活にむけ生活援助の計画・実施	病棟実習  →	病棟実習（7時間）  ▶ CF 全体像を活用しての発表	
提出	①②③	①②③	①②③	
記録	①②③	①②③	①②③	
MT			CF	

※ 計画表にある実習記録について：基礎看護学実習 ①実習記録Ⅲ ②実習記録Ⅳ ③実習記録Ⅴ  
MTのテーマは学生主体で決め、進行してください。

## VI. 記録提出方法

以下の順にファイルに綴じて提出する。

- 1 基礎看護学実習Ⅱ 実習評価表（自己評価の理由も記述）
  - 2 基礎看護学実習 実習記録Ⅲ
  - 3 基礎看護学実習Ⅱ 実習記録Ⅳ
  - 4 基礎看護学実習Ⅱ 実習記録Ⅴ
  - 5 検温表
  - 6 作成したパンフレット等のコピー
  - 7 書き直し前の記録（新たな実習記録用紙に記述した場合）
  - 8 自己学習ノート（A4 サイズ）穴を開けファイルに閉じる
- ※最終記録の提出は指定された日時までに行う。



## 基礎看護実習Ⅲ

### I 実習目標

- 1 より良い看護を追求する目的で、実習中のできごとについて省察することができる。
- 2 看護を実施した結果について次の行動につながるよう評価することができる。
- 3 看護師らしく考えることができるよう互いに意見を求める、助言をすることができる。

### II 評価規準（めざす姿）

- 1 手順をふみ、記述と自分の感情の記述の両方が表現できる。
- 2 医療者としての優先順位や患者・家族の気持ちなどさまざまな立場を理解したうえで看護師としての考えを表現することができる。
- 3 患者によりよい看護をするための知識を整理することができる。
- 4 実施した結果について患者によりよい看護をする目的で評価することができる

### III 単位数・時間数及び実習場所

実習内容	実習場所	時間数	単位
オリエンテーション・実習準備	学内	2	2
病棟実習	静岡市立清水病院	88	

8：30～16：15 9時間（休憩時間 60 分含む）

### IV 学習内容

患者を受けもち、1日の目標・計画を立て、看護過程を展開する。

学習活動	実習内容・方法	評価規準	評価資料
<p>疑問や気がかりになっていることをリフレクションシートに記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当看護師と受けもち患者とのコミュニケーションの実際を見学、コミュニケーションを通して患者の思い、考えを把握する。</li> <li>・得た情報から、看護問題を解決するために、自分が把握した状況について指導者に説明し正しく事象が把握できるようにする。</li> <li>・状況の把握は、過去の経緯と現状との関連や将来的な予測なども合わせて行う。</li> <li>・原則として指導者と一緒に援助を実施する。事前に注意すべき点や手伝ってほしいことについて打ち合わせをしておく。               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指導者への相談は、実習記録Ⅲを用い簡潔に伝わるよう準備する</li> <li>➤ 対象を理解しながら根拠を考え生活援助を実施する。</li> <li>➤ 対象に合わせた方法や注意点、援助の前・中・後にどのような点を観察すべきか伝え、生活援助を一緒に実施する。</li> <li>➤ 患者とどのように関わろうとしているのか、具体的に説明する。その状況で指導者が行うのを見せても</li> </ul> </li> </ul>	<p>手順をふみ、記述と自分の感情の記述の両方が表現できる。</p>	<p>基礎看護学実習実習記録ⅢⅥ 面接</p>

	<p>らうのか、指導者主体で学生が少し手を出せるようにする、あるいは、学生主体で指導者がフォローする、見守ってもらうのかを相談しながら実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを意識し、実施した内容、関わった内容について、なにが起こったか、具体的な状況、自分や看護師の役割、結果について表現する。また、その時の自分の感情に注目する。その後の状況の変化によって自分の感情の変化に注目し、表現する。</li> <li>・表現は、自分の感情、自分の感情の変化、事実の状況が聴き手、読み手に伝わるように工夫する。</li> </ul>		
<p>実習中の気がかりな出来事について倫理の原則と照らし合わせて、カンファレンスで話し合いをする。</p>	<p>(カンファレンスのねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関する4つの倫理原則（自立尊重原則・善行原則・無危害原則・正義原則）と医療専門職の義務の基礎となる2つの倫理原則（誠実・忠誠）と照らし合わせ、看護方針を出す。</li> </ul> <p>(カンファレンスの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理の原則と照らし合わせ、実習中の気がかりな場面を振り返り実習記録VIに表現する。</li> <li>・振り返った内容をカンファレンスの議題に挙げ、話し合う。</li> <li>・話し合うときは、事前に指導者と相談し、具体的な場面とテーマを提示し記録用紙VIなどを活用し資料として配布する。</li> <li>・カンファレンスに参加するメンバーは、事前に資料に目を通し、どのようにその状況がみえるか、承認のメッセージを具体的に伝える。具体的に良いと思う行動、そうではないと思う行動について根拠、理由を添えながらその範囲を限定的にし、30分程度で意見を述べる。</li> <li>・テーマの内容がお互いに深め合えるよう参加する。</li> <li>・プロから学ぶ姿勢を常にもち、患者が良い方向性へ向かうための関わりをもてるよう、看護方針について指導者から助言を受ける。</li> <li>・実習記録IIIを活用し発見や学びなどを書き留める、整理し、ファイリングする。</li> </ul>	<p>医療者としての優先順位や患者・家族の気持ちなどさまざまな立場を理解したうえで看護師としての考えを表現することができる。</p>	<p>カンファレンスの議題提示発言内容実習記録III VI</p>
<p>実施に使用した知識、より良い実施をするために活用する知識を挙げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の行動や判断は患者・家族にとってどうだったか省察する。</li> <li>・実施するにあたり想起した学習内容、補った新たな知識を自己学習ノートに整理する。また、カンファレンスや面接などを通して、新たに追加すべき知識があれば、記録等に追加する。</li> </ul>	<p>患者によりよい看護をするための知識を整理することができる。</p>	<p>自己学習ノート 実習記録VI 面接</p>
<p>実施した結果より次の実践にむけての取り組みを挙げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施に際し、必要であった知識、補った知識、助言内容から、患者のねがう生活へ向けた、プランをより良いものへ追加・修正・続行・中断を理由と共に明らかにする。患者とのかかわりやその他実習中に生じた出来事で判断に迷うこと・困ったことは、タイムリーに指導者やグループメンバーに相談し、解決しながら実習する。</li> <li>・テーマに合わせて学びを表現することで、対象理解を深め、翌日の対象と関わる手がかりを得る。</li> <li>・ケア実施後はケアの実施前・中・後を通して振り返る時間を</li> </ul>	<p>実施した結果について患者によりよい看護をする目的で評価することができる</p>	<p>実習記録III VI VII</p>



	<p>持ち、患者の反応と目標の関連性について実施内容を伝えられるよう、時間を調整する。患者の生活援助にこだわらず、関わりを通しての振り返りでもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5W1Hを意識し、実施した援助が目標としたことと、どのように関連しているのか、患者にとってその関わりがどのような意味があるのか、省察する。その内容について、指導者に伝える、カンファレンスを活用して助言を受ける。</li> <li>・ 振り返った結果をカンファレンスの議題として挙げ、メンバー、指導者より意見や助言をもらい整理する。整理する内容は、患者のねがう姿に実施内容がどのように関連するのか、修正を必要とするのか、それは何かを明確する。</li> <li>・ 実習記録VI、カンファレンスなどを通して学びとして最も伝えたいことを実習記録VIIIに整理し、最終日に学生同士で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 進行は、説明の時間を5分程度に制限し、5分以上の意見交換を目安に学生が進める。</li> <li>➤ 倫理の原則に基づいて考えた意見交換や説明者の経験についてなぜそうしたのか、考えや思いがよく理解できるよう進める。</li> </ul> </li> </ul>		
--	---	--	--

## 全体的な注意事項と実習方法について

### (病棟実習 1 日目)

- ・ 病棟の特徴・看護業務の1日の流れ・病棟の構造・物品配置を知り、翌日からの自分の動きをイメージできるよう病棟オリエンテーションを受ける。
- ・ 受けもち患者に挨拶を行い、情報収集・翌日の目標・計画を立案する
- ・ 受けもち患者を指導者やグループメンバーなどと相談し決定し、挨拶をする。

### (病棟実習 2 日目以降)

- ・ 朝の管理報告・チームカンファレンスを通して受けもち患者に関する情報収集を行う。
- ・ 担当看護師に本日の目標・計画を相談する。
- ・ 指導者が行う検温場面の見学を行い、観察の視点・目的を理解する。そのうえで、指導者と共にフィジカルアセスメント技術を用いた観察を行う。血圧測定についてはダブルチェックを受け、単独で行ってよいか確認する。
- ・ 看護教育の技術項目が到達度に達するよう、指導者の指導の下実施する。
- ・ 実習5日目あたり、週末、患者変更時など担当教員と相談しながら中間評価をつける。
- ・ 評価は、各評価規準の該当する評価基準の欄と、総合点に黒のボールペンで日付・点数を記入し、提出する。
- ・ 記録は、紛失しないようファイリング、提出し、自ら助言を求める。
- ・ 最終記録提出はオリエンテーション等で指示された期限を厳守する。(提出内容は他の項で示す) 患者の発達特性、発達課題をふまえ、理解した受けもち患者の機能障害と援助の方向性について指導者に相談する。
- ・ 患者理解が深めていけるよう、記録・報告・相談・ミーティング・カンファレンス・面接を通し、考えを表現する。
- ・ 得られた情報を基に、気になったこと、明日の実習目標(患者目標)、その理由、それを達成するための具体的計画を立て、指導者に相談する。
- ・ 実習2日目、実習最終日に、管理報告の時間などで病棟全体に向け、挨拶する。
- ・ 技術到達度チェックリストは実習の到達度に合わせ達成度 A または B を記述し看護師に確認してもらい印またはサインをいただく。実習中・後に担当教員に状況を確認してもらう。

## V 実習計画表

		病棟実習 1日目	2～3日目	
実習内容	学内オリエンテーション ・実習準備（2時間）	病棟オリエンテーション ・受け持ち患者紹介 ・情報収集 ・日常生活援助を看護師と共に実施	病棟実習 ・検温、日常生活援助を看護師と共に実施 ・患者のねがう生活に向けての生活援助の相談・計画 ・検温時の観察を看護師と実施	
提出		①	①②③	
記録		①②③	①②③	
CF				
	4～9日目	10日目		
実習内容	病棟実習 ・バイタルサインの実施 ・検温時の観察を看護師と実施 ・患者のねがう生活に向けての生活援助の相談、計画 ・日常生活援助を看護師と共に実施	病棟実習（7時間） CF 「実習での学びから看護を行う上で大切にしたいこと」 実習記録Ⅶを活用して発表		
提出	①②③	①②③④		
記録	①②③ 9日目④	①②③④		
CF				

※計画表にある実習記録について：

基礎看護学実習 ①実習記録Ⅲ ②実習記録Ⅴ ③実習記録Ⅵ ④実習記録Ⅶ

CFは学生主体でテーマを決め進行してください。10日目のCFは指導者と時間調整をしてください。

## VII. 記録提出方法

以下の順にファイルに綴じて提出する。

- 1 基礎看護学実習Ⅲ 実習評価表（自己評価の理由も記述）
- 2 実習記録Ⅲ
- 3 実習記録Ⅴ
- 4 実習記録Ⅵ
- 5 実習記録Ⅶ
- 6 検温表
- 7 作成したパンフレット等のコピー
- 8 書き直し前の実習記録（新たな実習記録用紙に記述した場合）
- 9 自己学習ノート（A4サイズ）穴を開けファイルに閉じる。

※最終記録の提出は指定された日時までに行う。

実習目的 実施内容をリフレクティブに振り返ることで、知識を得る体験を積み重ねる。

実習目標 1 より良い看護を追求する目的で実習中の出来事について省察することができる。（考える力）

2 看護を実施した結果について次へつなげるよう評価することができる。（行動する力）

3 看護師らしく考えることができるよう互いに助言を求め、助言をすることができる。（気づく力）

	学習活動	評価規準	目標との関連	評価資料	評価基準			
					すばらしい	よい	努力を要する	
1	疑問や気がかりになっていることをリフレクションシートに記述する。	状況の記述では学生と対象の両方の感情や言動が表現できる。	1	実習記録Ⅲ・Ⅳ 記述内容 面接	状況の記述では、自己と対象の両方の状況があり、自己の感情とその理由について説明されている。 2 5	状況の記述では対象の言動と自己の言動・思いが記述されているが偏りがある。 1 5	状況の記述では自己の言動や思いのみ記述されている。 1 0	
2	実習中の気がかりな出来事について倫理の原則と照らし合わせて分析している。またカンファレンスでも話し合いをしている。	医療者としての優先順位や患者・家族の気持ちなどさまざまな立場を理解したうえで看護師としての考えを表現することができる。	1.3	実習記録Ⅲ・Ⅵ カンファレンスの 議題提示・発言内容	倫理原則（自律・善行・無害・正義・真実・忠誠・効用）に照らし合わせて自己の気がかりとなった考えを優先順位や様々な立場からリフレクションし行動している。 また、メンバーが前向きに捉えられるように傾聴し承認した行動ができています。 2 5	倫理原則に照らし合わせて分析しており、またメンバーが前向きに捉えられるように傾聴し承認した行動ができています。 2 0	倫理原則に照らし合わせた分析が不十分であり、カンファレンスでは気がかりとなった自己の意見のみにとどまっている。 1 0	
3	実施に使用した知識、より良い実施をするために活用する知識を挙げる。	対象によりよい看護をするための援助の根拠について述べるができる。	1.2	実習記録Ⅴ・Ⅵ 自己学習ノート 面接	対象によりよい看護を実施するための知識を調べ、根拠と結びつけて表現している。 2 0	対象によりよい看護を実施するための知識を調べている。 1 5	対象によりよい看護を実施するための学習が不足している。 5	
4	実施した結果により次の実施にむけての取り組みを挙げる。	実施した結果について対象によりよい看護をする目的で評価することができる。	1.2	実習記録Ⅲ・Ⅵ Ⅶ	実施した内容が対象にとっての意味、影響、ねがう生活と照らし合わせ、考察し表現している。 また、次にどのように取り組むかを具体的に表現している。 1 5	実施した内容が対象にとってのねがう生活と照らし合わせ考察し表現している。 また、次にどのように取り組むかを表現している 1 0	実施内容と次の実践の取り組みのみ表現されている。 5	
5	医療者としての情報管理や良識、マナーの必要性を考えた行動をする。	医療者として知り得た情報の管理や良識、マナーの必要性を考えた行動がとれる。	3	記録用紙、メモ帳の管理状態 時間管理、体調管理、言葉遣い、態度、身だしなみ	医療者として情報を記載した記録物等の管理や他者に情報が漏れない行動している。 また、自らの行動を振り返り、良識、マナーの必要性を考えた行動している。 1 5	医療者として情報を記載した記録物等の管理や他者に情報が洩れない行動をしている。 自己の至らない良識、マナーについて振り返り、行動を変えている。 1 0	情報漏洩に繋がる行動をしている。 0	
指導者の助言							欠課時間数	時間
							中間評価/教員:	学生:
							指導者 ( )	最終評価/教員: